

療育研修会

親と子のシェルボーン・ムーブメント

「シェルボーン・ムーブメント」はイギリスのヴェロニカ・シェルボーンによって創案された子どもの発達を援助する訓練法で、ご家庭でも実践していただきやすい活動です。

お子様と一緒に楽しくムーブメントの活動を体験していただき、ご家庭での発達援助にご活用ください。

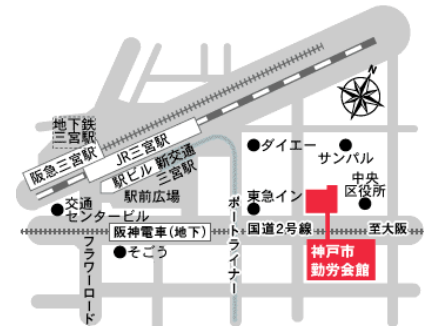


日時 : 2019年9月8日(日) 9:50~11:45 (受付9:30~)

場所 : 神戸市勤労会館 体育館、403号室

神戸市中央区雲井通5丁目1-2

*市営地下鉄・JR・阪急・阪神・ポートライナー
各三宮駅から東へ徒歩5分



内容 : ①講義 (シェルボーン・ムーブメントの基本的理論について)

②実技 (親子で体験)

対象 : 就学前の特別な配慮を必要とする児童、保護者 35組
(親子2人で1組)

主催 : 日本シェルボーン・ムーブメント協会

協賛 : 公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団

講師 : 瀧澤 聡 先生

(北翔大学 生涯スポーツ学部 スポーツ教育学科 准教授

「国際シェルボーン協会」認定インストラクター)

参加費 : 親子1組につき1,500円

(保護者2人以上の場合、別途お1人につき500円)

本研修会は神戸市社会福祉協議会の障害者福祉基金・フェスピック事業助成を活用しています。



講師紹介

瀧澤 聡(たきざわ さとし)先生

北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科准教授、博士(作業療法学)。
 札幌市立小学校通級指導教諭等の約 20 年の現場経験があり、特別支援教育で
 障がいのある児童生徒・成人に関する運動療育を中心に研究活動を行っている。
 国際シェルボーン協会インストラクター。



お申込みについて

お申込み方法： 受講申し込み書（コピー可）に必要事項をご記入の上、
 下記の宛先まで FAX または、E-Mail にてお申込みください。
 受講が決定された方には、受講決定通知と受講のご案内を送付させていただきます。

お申込み宛先： 日本シェルボーン・ムーブメント協会
 〒650-0004
 兵庫県神戸市中央区中山手通 5-1-1 神戸山手大木ビル 2 階
 公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団内
 TEL：(078)382-0294 FAX：(078)371-0966
E-Mail：contact@j-sherborne.org

お申込み締切日： 2019年8月2日(金)

----- きりとり線 -----

療育研修会 親と子のシェルボーン・ムーブメント 受講申込書 No.

ふりがな		
保護者のお名前		
ふりがな		
お子様のお名前	(歳)	(歳)
お子様のご所属 (通園施設など)		
ご自宅住所	〒	
TEL：	携帯電話：	FAX：
E-Mail：		
実技に参加されない児童の託児をご希望されます場合（有料）は下にお名前をご記入ください。 <u>* 託児お一人につき 1,000 円</u> _____ (歳) _____ (歳)		

シェルボーン・ムーブメント

～Q&A～



シェルボーン・ムーブメントとはなんですか？

イギリスのヴェロニカ・シェルボーンによって創案されました。ヨーロッパ各地やカナダ、台湾で幅広い対象者に用いられています。1993年にはじめて当財団が日本に紹介して以来、多くの幼稚園、保育所、通園施設、学校、成人の施設等で活用されています。



どのような人が対象ですか？

障がいのあるなしに関わらず、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢の人たちに用いられます。特に発達の初期から、様々な制限を受けて育つ子どもたち(重症心身障害・発達障害・知的障害・視覚障害・聴覚障害など)に有効です。



どのような目的とするのですか？

人が主体的に周囲の環境(場所や物、人など)と関わって生きるための基礎である①自分の身体認識、②周囲の空間認識、③他者との人間関係を育てることを目的としています。他者と楽しく感覚運動経験を積み重ねることで、①～③を獲得することができます。様々な運動を経験する中で動作と言葉の結びつきが高まるため、言葉の発達にも役立ちます。



どのようなことをするのですか？

床の上で様々な運動を経験します。道具は使いません。一人で、お父さんお母さんと、ご兄弟と、お友達と…様々な人がパートナーとなることができ、抱っこされたりもたれて揺れたり、転がったり、押し合ったりといった活動を行います。





子ども同士でひっぱり合う



大人の背中にまたがってすわる



子どもを滑らせる



大人が作ったトンネルをくぐる

過去の受講者様のアンケートより



動きによって得られるものや、動作のそれぞれの目的がよく分かり大変参考になった。

親子とも楽しく実技を受けることができた。
日常生活で実践していきたい。



子どもに触れ合う機会が少ない中で、
子どもとの触れ合い方が以前よりも理解できた。

実技が分かりやすくてよかった。
子どもが楽しそうにできてよかった。

